

文書が映す安曇野の文化⑩ 江戸期の絵地図が面白い

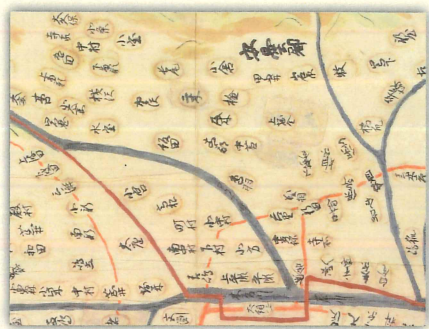
文書館には多くの古文書が収蔵されていますが、その中には古地図・絵図が含まれています。墨で記された多くの古文書の中で彩色の施された古地図は一際目をひきます。現在と当時の様子の違いが顕著に表されています。絵地図によっては劣化が激しく、欠損しているところがあったり色落ちがあったりして読み取ることが難しいものもあります。

令和7年度に、「信濃國絵図」(山口家文書No.9153)、「筑摩郡安曇郡図」(山口家文書No.9254)、「筑摩県第十大区絵図」(2007536)の3つの古地図の複製を作成し、閲覧する皆様が手軽に触れたり調べたりできるようになりました。

昔から存在し、現在まで存続している村(集落)があったり、かつて存在していたが今は消えてしまった村(集落)があったりします。山の名前や川の名前、用水路などにも現在との違いを見つけ出すことができます。橋も大きく変化しているものの一つです。

図は「信濃國絵図」の一部で、分村や新田開発によりできた村々は描かれていません。長尾村は上・下に分かれていません。一日市場、七日市場は二木から分村していません。住吉や中堀は新田村として位置づいていません。「信濃國絵図」から梓川・烏川上流より村ができ、水から遠い場所には村が存在しないことが読み取れます。この絵図には年代が記入されていませんが、おおよそ寛政年間(1789～1800年)に描かれたと推察することができます。

村の成立年、境界の変遷、公道の変遷、架橋年代など他文書の資料を精査することでおおよその地図作成の年代や目的を知ることができます。目で見える資料として地域を俯瞰する重要な資料です。是非ご活用ください。



「信濃國絵図」(山口家文書No.9153)部分

企画展等の予定

- 後期企画展「古文書に見る安曇野～地名編～」
【期間】9月13日(日)～12月27日(日)
関連講演会
【日時】10月18日(日) 午後1時30分～午後3時
【講師】未定
関連講座①「町村名の変遷と市町村章」
【日時】9月27日(日) 午後1時30分～午後3時
【講師】松澤 果穂(文書館職員)
関連講座②「絵地図からよみとる安曇野」(子ども向け講座)
【日時】11月15日(日) 午後1時30分～午後3時
【講師】千村 裕一(文書館職員)
- バックヤードツアー
【日時】令和9年2月14日(日) 午後1時30分～午後3時



利用案内

【開館時間】 午前9時～午後5時
【休館日】 土曜日、祝日、12月29日から1月3日
【駐車場】 約50台(堀金支所・堀金公民館・堀金図書館共用)

ACCESS

長野自動車道安曇野ICから約5km、自動車約10分
JR大糸線豊科駅より約3km、自動車約6分

あとがき 令和8年3月をもって平沢重人館長が退職されました。平沢館長には、初代館長として8年間、当館でご活躍いただきました。職員一同、感謝申し上げますとともに、新天地でのご活躍を心よりお祈り申し上げます。また、4月から文書館は新体制でのスタートとなりました。多くの皆様に当館を活用していただけるよう、今年度も様々な企画を用意してお待ちしておりますので、引き続き当館をよろしくお願いいたします。



安曇野市文書館だより 第16号 編集・発行 安曇野市文書館 発行日：令和8年5月15日発行
〒399-8211 長野県安曇野市堀金烏川 2753 番地 1 TEL 0263-71-5123 FAX 0263-71-5127
E-MAIL bunshokan@city.azumino.nagano.jp URL www.city.azumino.nagano.jp/site/bunsho/



安曇野市文書館だより

第16号



館長あいさつ

安曇野市文書館長 山下 泰永

この4月から文書館の館長を務めることになりました、山下泰永と申します。これまで文化財の業務には携わってきておりましたが、文書館業務の経験は初めてですので、皆さまのお力添えをよろしくお願いいたします。

平沢前館長におかれましては、安曇野市文書館が開館した平成30年10月1日から、準備期間を含めると8年間という長い間、安曇野市文書館の礎を築き上げてこられました。また、その間、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会の誘致、安曇野市制施行15周年記念事業の企画展示、郷土の人物顕彰など、安曇野市ならではの様々な展示を企画されてこられました。長年の御尽力に感謝を申し上げますとともに、これまで支えて下さった市民・関係者の皆さまに厚く御礼申し上げます。また改めて、皆さまの御指導、御鞭撻をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、資料収蔵点数は令和7年度末現在で、開館当時と比較すると、公文書は2万8,000点あまり増えて約7万4,000点、この中には市内17校の学校日誌などの学校資料も含まれます。地域文書は9万6,000点あまり増えて約10万9,000点に及んでいます。この中には古い家にあった古文書のほか、市内各所で所蔵していた区有文書などがあります。このように文書館には、江戸時代以前から現代に至る約18万点以上の資料が収蔵されています。

文書館では、郷土が歩んできた足跡を知るための貴重な資料を多くの皆さんに知っていただき、広く利用していただけるよう様々な工夫をしております。

最後に、こうした地域文書も、近年の住宅の建て替えなどで散逸の危機に瀕しています。もし、ご自宅に古文書、記録写真等がございましたら、処分する前に、文書館へ一言お声掛け下さい。



前期企画展 関連講演会

講演会1 「安曇野市文書館と調査団との協働 一望月桂関係資料目録がむすぶ記録と記憶」

【開催日時】 令和8年6月21日(日) 午後1時30分～午後3時(開場 午後1時)
【講師】 谷口 英理 氏
(独立行政法人国立美術館 国立アトリサーチセンター 主任研究員)
山永 尚美 氏
(独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所 アソシエイトフェロー)

講演会2 「手稿がひらく美術史と社会史」

【開催日時】 令和8年7月26日(日) 午後1時30分～午後3時(開場 午後1時)
【講師】 足立 元 氏 (二松学舎大学准教授、望月桂調査団代表)

<講演会>

参加費 無料

会場 ○講演会1
安曇野市堀金公民館講堂
○講演会2
豊科交流学習センターきぼう
多目的交流ホール

事前申込 必要
(電話、FAX、メール)

○講演会1：5月26日(火) から
○講演会2：6月23日(火) から

安曇野市文書館
ホームページ▶▶



前期企画展

望月桂 自由を扶くひと 一犀川凡太郎の人生漫歩一

企画展趣旨

望月桂は、明科出身の画家で、アナキストとしても知られています。また、犀川凡太郎の名で社会風刺の漫画も描いていました。望月に関する資料は、令和4年から現在まで望月桂調査団（代表・二松学舎大学 足立元准教授）による悉皆調査が行われています。また、令和7年3月にはご遺族から安曇野市教育委員会へ資料が寄託され、絵画資料は安曇野市美術館に、日記や原稿等の資料は当館に収蔵されました。

今回の企画展では、安曇野市ゆかりの人物である望月桂にスポットをあてるとともに、当館へ寄託された日記や原稿等の文字資料を中心に、望月の思想や活動の一端を紹介します。

また、望月は自分の生涯や思想を、多くの日記や回顧録に書き残しています。なぜ、望月はこれほど多くの手稿を残したのか。明治・大正・昭和を生きた望月が残したもの（書き残したもの）を通して、現代の私たちへのメッセージを探ります。

期間 令和8年5月10日(日)～8月30日(日)

会場 安曇野市文書館1階閲覧コーナー

入館料 無料

関連企画 ※詳しくは、各館ホームページ等をご覧ください。

安曇野市美術館 夏の特別展「望月桂 自由を扶くひと」

期 間 令和8年7月4日(土)～8月30日(日) ※月曜日休館(ただし7月20日(月・祝)は開館、7月21日(火)は休館)
会 場 安曇野市美術館 第5・6・7・8展示室、大展示室
内 容 望月桂資料(絵画、漫画原稿、スケッチなど)約120点の展示
入館料 一般520円(410円)、大学高校生310円(200円) ※()は20名以上の団体料金、中学生以下無料

関連企画

(1) シンポジウム 7月11日(土) 13:00～16:00

① 発表: 足立元氏(二松学舎大学)、大島浩氏(松本市)、岡村幸宣氏(原爆の図丸木美術館)、
武井敏氏(碌山美術館)、塩原理絵子(安曇野市教育委員会)ほか

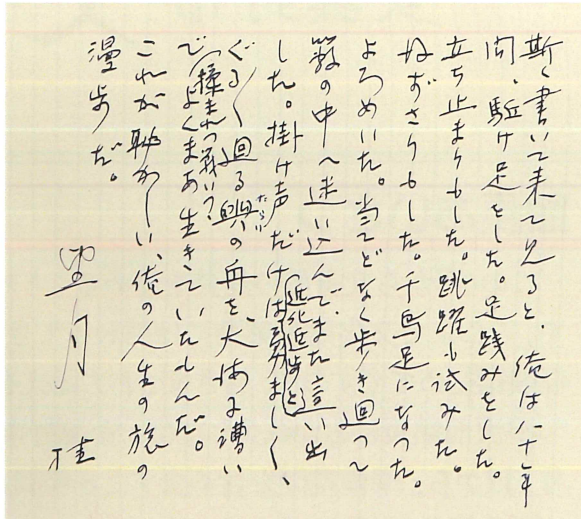
② 鼎談: 卯城竜太氏、風間サチコ氏、松田修氏ほか

(2) トークイベント 8月1日(土) 14:00～15:30

講師: アラン・アントリフ氏(ビクトリア大学 美術批評家) ※逐次通訳あり

碌山美術館 連携企画「荻原守衛と望月桂」

期 間 令和8年7月4日(土)～8月30日(日)
会 場 碌山美術館 杜江館



斯く書いて来て見ると、俺は八十年間、駆け足をした。足踏みをした。立ち止まりもした。跳躍も試みた。後ずさりもした。千鳥足になった。よるめいた。当てどなく歩き廻って藪の中へ迷い込んで、また這い出した。掛け声だけは進化進歩と勇ましく、ぐるぐる廻る盤の舟を大海に漕いで揉まれつ戦いつつよくまあ生きていたもんだ。これが恥かしい、俺の人生の旅の漫歩だ。 望月桂

「人生漫歩の足跡 思い出 その11」
(望月桂関係資料351)より

望月桂《反逆性》1920年

望月桂が書き残したもの

たより2ページ目に掲載した画像は、望月桂の回顧録「人生漫歩の足跡 思い出」(全11冊)の11冊目の最後のページに書かれた文章です。望月は、絵画・漫画は当然のこと、社会活動にかかわっての評論、随筆、日記など実に数多くの手稿を残していますが、自らこれらの記録や論考を見比べ、編集してまとめたのがこの「人生漫歩の足跡 思い出」です。昭和38年、70代も後半にさしかかった望月が自らの生涯を振り返り、波乱に満ちた活動の日々、荻原守衛(碌山)との出会いなど忘れえぬ人々の思い出を記しています。

これに続き、「随筆」(全18冊)を記しています。「随筆」は、昭和44年から書き始め、亡くなる年の昭和50年10月に書き終えました。「随筆」には、80代になった現在の心境や過去の出来事のほか、「友人・戦線同志のこぼれ話」として大杉栄・久板卯之助ら社会運動の仲間たち、藤田嗣治・岡本一平ら東京美術学校の同級生、荻原守衛や平林盛人ら地元の交流のあった人物たちについて、過去の出来事を交えてどのような人物であったかを書いています。また、「子育て地蔵」では、望月が高島屋工業株式会社の青少年寮の舎監を務めていたころの日記をもとに、太平洋戦争終戦までの4か年の生活を回顧しています。

「落葉の私語」(全4冊)は、昭和46年から書かれたもので、「人生漫歩の足跡」や「随筆」と同様に、望月の回顧録となっています。前書きには次のように書かれています。「これは俺の若葉から落葉までの生活を通した経験を断片的に心に浮ぶまま書いたのだ。(略)他の人の記録や批判を合はせ、何かの足しにもなればと。更らに書こうとした動機に、最近の読物の中に、創作とも史実ともつかぬ様なものがあるが。小説なら何う書こうとかまわぬものの、少くとも史実を根幹として書く以上、確かな依り処によらなければならない。虚実が混迷横行し、その当てにならぬものが、何々によると誠にやかに、嘘が事実の様に伝えられる。それ故に自分に関する限り、自分が一番よく知っているのだから、茲に老い先の短かさを感ぜ、整理を兼ね記録することにした。」

「落葉の私語」と同時期に書かれた「桂記録年譜」(全5冊)は、自身の記憶をたどって、年代順に出来事を記載したものです。「年譜だけでは乾からびた骨みた様だから多少の覚えて居る肉付けをして見たのだ。」と書かれているように、年譜に加え、当時のエピソードも書かれています。年譜は、望月が生まれた明治20年1月11日(戸籍上の生年月日、実際の生まれ年は明治19年12月23日)から昭和50年11月29日まで書かれています。

これらの手稿について、望月は次のように記しています。「一、俺の「年譜記録」というのは年代順に、生活目録だけを並べただけでは、味気が無さ過ぎる様な気がして薄肉切り程度に記述したものだ。二、「思い出の記」は過去生涯の追憶を順序構はず、思いつきの儘、有った儘を時内容も統一を意とせず書き連らねたものだ。三、「随筆」は過去現在未来に関わりなく時折感想を書いた短編だ。四、「落葉の囁き」は老後の私言独語。五、老いの句等誌。短い文句を詩感のつもり。」(望月桂関係資料334)

このように望月は晩年から亡くなる直前まで、自らの生涯を様々な形で記録として残しています。活字化して世に出すことはありませんでしたが、後世に誰かが読むことを意識して書かれたものだと推察されます。望月はなぜ多くの手稿を残そうと思ったのか。何を伝えたかったのか。令和8年度前期企画展では、彼が書き残した手稿から、晩年の安曇野での活動を中心に、その人間観、社会観、生きざまに迫ります。

昭和47年2月撮影
(望月桂関係資料528)望月桂(犀川凡太郎)
(明治20年～昭和50年)

東筑摩郡中川手村(現 安曇野市明科)に生まれる。明治43年、東京美術学校(現 東京藝術大学)を卒業。その後、印刷所、氷水屋等を開き、堺利彦・大杉栄らと親交を深め、社会・労働運動関係の新聞等に挿絵や漫画を描く。また、犀川凡太郎の名で読売新聞等に社会風刺漫画を描く。昭和16年からは軍需工場である高島屋工業株式会社の青少年寮の舎監となる。戦後は、郷里で帰農し、農地委員長として農地改革に精力を傾けた。晩年は、松本松南高校(平成22年閉校)の美術講師を務め、美術教育に専心した。